

1 - 4 北海道における 2 重深発地震面

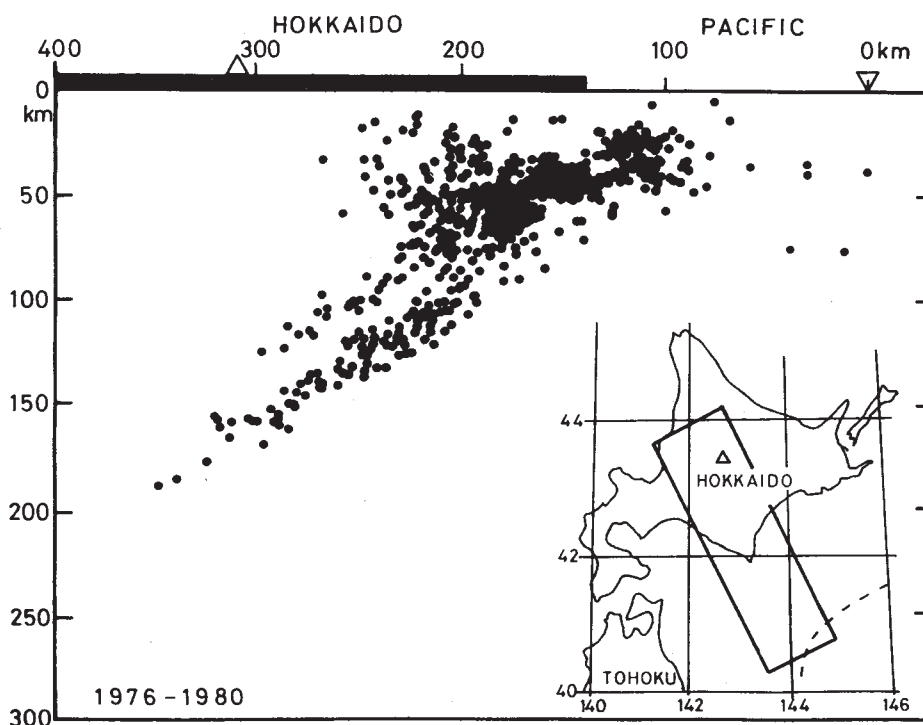
Double Seismic Zone beneath Hokkaido

北海道大学理学部

鈴木貞臣, 本谷義信

Sadaomi Suzuki, Yoshinobu Motoya
Faculty of Science, Hokkaido University

北海道大学地震テレメータ観測の資料を使って震源を再決定した結果、関東と東北地域について北海道でも深発地震面が2重になっていることが分かったので報告する。この2重面は北海道南部から中央部にかけて見られるが、第1図は観測点の比較的多い日高山脈を含む領域で発生した地震の震源分布図である。この図によると深さ70~80Kmより深いところで2重面が現われ、両面間の距離は25~30Kmであり、これらの面は水平より約35°の角度で北北西に傾いている。上面を浅くかつ海溝に向って延長した面上に地震が多発しているし、また1952年十勝沖地震(M8.1)もこの延長面上付近で起ったものと考えられる。この資料が将来の大地震発生の予測の一助となることを期待する。



第1図 北海道中央部で発生した地震の震源分布の断面図。
三角形は十勝岳，逆三角形は海溝の位置を示す。

Fig. 1 Vertical cross section of seismicity in and near Central Hokkaido. A triangle and a reverse triangle represent the positions of Mt. Tokachi and the trench axis, respectively.